



# 高知県立四万十高等学校

〒786-0301 高知県高岡郡四万十町大正590 - 1  
TEL 0880-27-0034 FAX 0880-27-0477  
E-MAIL shimantokoukou@gmail.com



ホームページ



Instagram

**四万十高校 今年も26名が入学！**活気あふれる新年度がスタート  
努力目標26名を達成。四万十高校に新しい風が吹いています



教室での学び、グラウンドでの練習、遠足や交流活動など、生徒たちはさまざまな場面で生き生きと過ごしています。四万十高校の毎日には、前向きなエネルギーが満ちています。

## 3大プロジェクト始動！地域とともに学ぶ四万十高校の挑戦

探究・自然環境教育・地域連携が融合し、四万十高校ならではの学びが進化しています



### ● ビジネスチャレンジ プロジェクト

四万十町役場、地域企業と協働し、ふるさと納税返礼品の開発や販売に挑戦。生徒のアイデアが地域の魅力を形にしています。



### ● 日本みつばち プロジェクト

巣箱づくりから飼育まで、生徒が主体となって取り組む生徒の『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現を目指した探究活動。自然と向き合いながら学びを深めています。



### ● 石積み プロジェクト

地域の伝統の技術を学び、空石積み工法に挑戦。全国大会での入賞経験を糧に、今年も技を磨いています。

生徒の挑戦が、四万十高校の未来を切り拓いていきます



田村 皓哉さん

(生姜農家)



## 生姜の町を知ってほしい

畑一面に敷かれた白い不織布。その下で、春に植え付けた生姜しょうがが芽を出そうとしている。

「これからは天候と病害にヒヤヒヤしますね。暑さにこたえて弱ったりしたら、病害が広がることもあるので。難しいです」と田村皓哉さんが話す。父の後を継ぎ、市生原地区の計2.4ヘクタールで年間およそ120トンの露地生姜を栽培。30代にしてJA高知県四万十生姜部会の部会長を務める。

10月の収穫まで、特に夏場の台風や大雨に気を配る。「水で病原菌が運ばれると一気に病害が広がってしまいます。早い段階で見極めて処置しないとイケないです」。

田村さんは高校卒業後、関東の大学で工学を学んだ。農業を継ぐつもりはなかったが、父の病気を機に帰郷した。「帰ってこいとも、何も言われませんでしたけどね」と静かに振り返る。

父と一緒に仕事ができるのは、わずか3か月。右も左も分からないまま、経営を引き継ぐことになった。地元の大先輩から手ほどきを受け、栽培技術を一から身に付けていく。

「最初は何もかも一生懸命で。1年で何年分も勉強したと思います」。

生姜の一大産地の四万十町でも、生産者の高齢化と後継者不足が課題になっている。「やっぱり一番は人です。新しい人が入ってやってくれたらいいんですけど」。

そんな中、部会では明るい話題もある。2024年、日本食研と共同開発した「清流四万十 生姜鍋つゆ」が発売された。地元の女性たちが長年作り続けてきた生姜鍋を商品化したものだ。「四万十町の生姜」が全国に届く機会がうれしいという。



地域での活動も続く。地元の小学校で毎年行う「コンテナショウガづくり」。植え付けから収穫までの作業を教え、台地まつりではコンテストも行う。

「四万十町は生姜の町なんで。まずは子どもたちに、それを知ってほしいという思いはあります」。穏やかに話し、畑に目を向けた。

ちよい waza!!

町にはこんな waza も

強くなりた〜い! 伊与木 華さん(写真左) 窪川小4年、武政 美佑さん 影野小2年



華さんは「強くなりた〜い」と1年前から窪川の空手道場に通い始め、毎週火曜に稽古を積んできた。技を決める瞬間が楽しいという。「突きや蹴りが好き」という美佑さんは兄・颯太さんと通う。「(妹は)まだまだだけど、初めよりは成長しちゅう」と、少し照れくさそうに妹の頑張りを褒めていた。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちよいwaza!!は随時募集中!▶

